

## 活動紹介コーナー

### 津市民防災ネットワーク

#### 津市民防災大学の卒業生が地域の連携を考える

津市民防災ネットワーク 代表 朝倉玲子

津市民防災ネットワークは、津市民防災大学の卒業生が、地域や家庭の防災対策について語り合い、津市民の防災力向上のために連携して取り組むことを目的として、平成27年4月に結成した組織です。

参加メンバーは、一市民として「防災についてもっと勉強したい」、自主防災会のメンバーとして「どのように進めたら良いかのヒントを得たい」、支援者として「地域の防災活動に協力したい」などさまざまな思いを持って活動しています。

活動は、毎月1回、津市市民活動センターで定例会議を開催し、メンバーの活動紹介や、メンバーが講師となつての勉強会、市民の防災活動について考えるなどの取り組みを行っています。

また、将来は、防災意識の普及啓発活動

や防災活動に取り組む団体・個人との連携をしていきたいと考えています。津市民防災大学の卒業生の新たな参加を、随時受け付けていますので、参加を希望する人は定例会議にお越しください。お待ちしております。(開催日は、津市市民活動センターのホームページの団体検索「ミツカル！」の「さんか」から「地域防災」を選び、イベント情報をご確認ください)



### 南が丘地区自主防災協議会

#### 地域住民の顔の見えるつながりを大切に

南が丘地区自主防災協議会 会長 中村保親

私たちの自主防災協議会は津市の高台地区にある18の自主防災会(約4,300世帯、人口約1万1,000人)で構成されています。

将来、起こると想定されている南海トラフ地震では、津波被害こそ無いと想定されるものの、液状化やライフライン停止による避難所生活が予想されるため、平成18年より避難所運営についてさまざまな啓発や訓練を重ねてきました。

その中心となるのは避難所である南が丘小学校と南が丘中学校です。これらの学校はコミュニ

ティスクール推進校であることから、日頃より地元住民や自治会、各種団体が学校運営や授業に積極的



に参加し、地域と学校が深く関わりを持っています。

このため、避難所運営訓練などでも、地域住民、先生、子どもたちが密に連携して実施することができました。

また、東日本大震災後は、津波により大きな被害を受けるとされている海岸地区(修成地区、育生地区、藤水地区)との連携強化を図るため、4地区合同懇談会を立ち上げ、4地区、小・中学校、行政協働による避難所運営訓練を平成25年から3回実施してきました。

非常災害時に本当に大切なことは、日頃からの備えと地域住民の顔の見えるつながりです。これからも、夏祭りや各種行事、学校支援などを通して地域の絆づくりを進めていきます。

